

ていると、舞台では挨拶が手短かに終わり、country and western の歌と演奏が始まった。陽気なアメリカ人はすぐ輪になったりペアになって踊り始めた。外国人は遠巻にして手をたたいていたが、次第に踊りに溶け込んでいった。よく見ると踊りに加わらない内気なアメリカ人もいた。外は雪が降っていたが、会場の熱気は夜11

時になっても冷める気配がなかった。

謝辞 筆者のうち、石原は科学技術庁長期在外研究員として、NSSL/NOAA と CIMMS (Cooperative Institute for Mesoscale Meteorology Studies) に滞在中、CIMMS の援助によってこの会議に出席した。

### Third International Symposium on Refined Flow Modelling and Turbulence Measurements (第3回 流れのモデル精度向上化と乱流測定に関する国際シンポジウム)

#### 1. 会議の目的

高速計算機の急速な発展と数値解析手法の向上によって各分野で流体現象の数値解析が数多く行われており、数理モデルの精度向上化に鋭意努力がされている。

本シンポジウムは、パリ、アイオワに引き続き、海洋、気象、土木、建築、原子力、機械、など学際的分野の研究者・技術者により、流体現象の数値解析手法ならびにモデルの入力条件となる流れの測定を論議するもので、エネルギー、環境、木土工学、海洋・気象、都市工学など流体現象に関係する多くの問題の解決に貢献しようものと考えます。

**主催** 「第3回 流れのモデル精度向上化と乱流測定に関する国際シンポジウム」組織委員会  
国際水理学会 (International Association for Hydraulic Research)

**後援** 日本学術会議 水力学・水理学研究連絡委員会、日本海洋学会、日本気象学会・他

2. 会期 昭和63年7月26日(火)~28日(木)

3. 開催場所 日本都市センター

東京都千代田区平河町 2-4-1

4. 会議の主題 乱流および熱輸送のモデル化、数値解析手法の進歩、大気・水域環境における分散・

成層流、都市・建築環境における流れ、原子炉容器内の熱流動、密度噴流による混合、河川・開水路の流れ、土壌・岩盤中の地下水移行、波の変形、流れの可視化、乱流測定

#### 5. 会議の構成

一般応募論文の発表 約100件

基調講演 3件

パネルディスプレイ 約20機関提出予定

アブストラクト(500語)締切日 昭和62年11月15日

最終原稿締切日 昭和63年6月1日

Proceedings 発表論文を Proceedings にまとめて発行します。

参加費(論文集、その他を含む) 35,000円

(学生は 15,000円)

#### 6. シンポジウムの申込み方法

参加希望の方は葉書に、氏名、勤務先、連絡先住所、電話を明記してお申込下さい。応募用紙 (Bulletin No. 1) をお送りします。

宛先 〒270-11 千葉県我孫子市我孫子 1646

電力中央研究所 我孫子研究所

和田 明